

曼陀羅寺公園の藤

曼陀羅寺公園は、昭和 45 年頃から本格的に公園の整備を行い「藤の公園」として観光の名所となりました。しかしその後、花付きが芳しくない時期が続き、藤の花の再生を望む声が高まっていました。

そこで全国的な藤の権威でもある樹木医(塚本こなみ先生)に藤全体を診ていただき、平成 18 年度から平成 20 年度にかけて藤棚やデッキの大改造を行うなど、藤が伸び伸びと育つ環境の整備を行いました。

今日においても美しい藤の花を楽しんでいただくことができますが、今後さらに成長し蔓つるが全体に伸びていけば、棚一杯に藤の花が咲き誇るより素晴らしい景観をご覧いただけれると思います。成長を続ける藤の花の将来の姿を想像しながら、お楽しみください。

公園内には 11 種、約 60 本の藤があります。主な藤の特性などについて紹介します。

の だ いっさい こくりゅうふじ
「野田一歳」は別名「黒竜藤」とも呼ばれ、濃い紫色で房は 40 cm から 50 cm 程度になり、丈夫で育てやすく、花付きもよい藤です。若木のうちから花を咲かせるので「一歳藤いっさいふじ」の名があります。

きゅうしゃくふじ
「九尺藤」はナガフジ系統で青紫色、約 100cm から 200cm の花房を付けます。野田藤の一種です。

たかやまはくりゅう
「高山白竜」は象牙色白花の大系長房で、花房は 30～60 cm ほどになり、旗弁きべんの中央部はきれいな濃黄色です。樹性は強健で花付きがよく多花性です。山藤の一種です。

や え こくりゅう
「八重黒竜」は紅紫色で八重咲きの品種です。花房は 20 cm から 30 cm ほどで、花弁に量感があり、華やかに重なって咲くことから「牡丹藤ぼたんふじ」とも呼ばれます。野田藤の一種です。

むらさきか びたん
「紫華美淡」は大輪の花で約 10～20 cm の房を付けます。花房は短いが豪華なので「花美短か びたん」の字もあてます。山藤の一種です。